

LGBT理解増進に関する 取組について

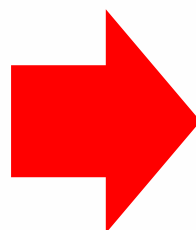
日時：令和6年2月6日（火）18:00～19:30

場所：苫小牧市役所9階 議会大会議室



LGBTについて

L	レズビアン (Lesbian)
G	ゲイ (Gay)
B	バイセクシュアル (Bisexual)
T	トランスジェンダー (Transgender)



性的マイノリティの
総称として使われている。[※]

※ LGBT以外の性的マイノリティも含まれている。

LGBTQ、LGBTQ+、LGBTs等といわれることもある。



取組の根拠

現状1 当事者から考えや経験を聞く機会が少ない。

- ・LGBTについて「知っている」「まあまあ知っている」と答えた市民は7割。しかし、身近にLGBTの方がいると答えた人は少ない。

男女平等参画に関する市民意識調査(R4.1実施)

性的少数者について「よく知っている」「まあまあ知っている」と回答・・・約70%

そのうち身近に性的少数者の方が「いる」と回答・・・約16%

- ・LGBT当事者の割合は約1割といわれている。身近にいないと感じているのは、カミングアウトをしている人が少ないためと考えられる。

電通ダイバーシティラボの調査(2023年)

LGBTQ+当事者の割合・・・ 9.7%(2020年から0.8%増加)

- 当事者が抱える問題が可視化されないため、自分ごととして捉えにくい。
- たとえ、身近に当事者がいたとしても、考えや経験をきく機会があるとは限らない。



取組の根拠

現状2 社会に出てからの「生きにくさ」

- ・性別による役割分担がある職場もまだまだ多く、そのような職場には「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」という性に関する固定概念も根強く残っている。
 - ・「うそをつき続ける」ことが苦しくなり、転職を繰り返す人も多い。
- 収入の不安定さに繋がる。精神的な不調をきたす場合も。
- 職場において、異性愛者であれば当然受けられる休暇（結婚休暇、育児休暇等）、手当、福利厚生等を利用できないことによる損失もある。



令和6年度の取組

令和6年3月に行われる市議会へ予算案を提出した後に令和6年度予算は正式に決定するが、現在の取組案は以下のとおり

現状1 当事者から考えや経験を聞く機会が少ない。

→当事者による講演会の開催

→専門性の高い講師による若年層向け出前講座の実施

現状2 社会に出てからの「生きにくさ」

→苫小牧市役所としてLGBTの職員が働きやすい環境を整備し、PRIDE指標の取得を目指す。
(市役所が苫小牧市におけるモデルケースとなる。)



取組①

LGBT講演会の開催

- ・令和5年7月に文化会館で開催したタレント・振付師のKABA.ちゃんの講演会は、440人と多くの来場があった。
→著名人を講師とすることで、多くの来場者を集められた。
→「受講前まで偏見があった」という参加者もいた。
- ・当事者からリアルな話を聞いたことで参加者の満足度も高く、別の当事者を招いての講演会の実施の希望も多かった。



R5.7.23 KABA.ちゃんの講演会の様子

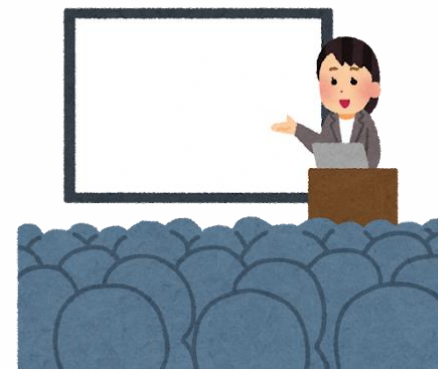


取組②

外部講師による若年層向け出前講座の実施

- ・これまで若年層向けの出前講座は市職員が講師となり実施。多様な性に関する知識や考え方についての内容が主。申込みは、年々増えている。

令和2年度	4校(330人)
令和3年度	5校(577人)
令和4年度	11校(905人)
令和5年度(予定)	12校(1376人)



- ・当事者の気持ちや環境、生きづらさ等をより具体的に伝えたい。
- ・社会的な関心事となっている「多様な性」に関する分野は、情報の動きが早く、専門性が求められるようになってきた。

LGBT支援団体に講師を委託し、内容を刷新



取組③

PRIDE指標認定に向けた取組

PRIDE指標

一般社団法人「work with Pride」による職場によるLGBTへの取組評価指標

P: Policy 行動宣言	性的マイノリティに関する方針の明文化、公開 (ex.行動規範やトップの宣言)
R: Representaiton 当事者コミュニティ	性的マイノリティに関する意見を言える機会の提供、アライを増やす取組
I: Inspiration 普及啓発	従業員に対し性的マイノリティへの理解促進をするための取組(ex.研修の実施)
D: Development 人事制度・プログラム	休暇、支給金、福利厚生に同性パートナーへの適用、トランス当事者への施策
E: Engagement/Empowerment 社会貢献・渉外活動	社会の理解を促進するための活動 (ex.イベントの主催、出前授業)

取組③

PRIDE指標認定に向けた取組

実践

まずは、市役所がLGBTの職員にとってより働きやすい職場となるよう環境を整える。

表示

認定取得という分かりやすいかたちで市民に示す。

発信

取組のメリットを市民に伝えていく。

スケジュール

令和6年1月25日 一般社団法人「work with Pride」によるオンライン説明会

令和6年6月1日 応募要項の公開

令和6年7月1日～8月31日 応募受付期間

令和6年10月下旬(予定) 結果決定通知

令和6年11月(予定) 結果発表



これまで行ってきた取組みについても継続

- ・ アライ職員の宣誓・バッジによる表示

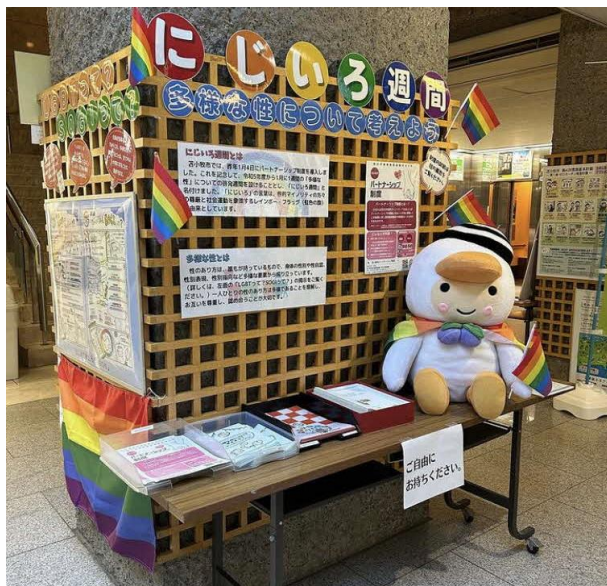


- ・ パートナーシップ制度の運用及び連携自治体の拡大
- ・ 市民向け出前講座の実施
- ・ 男女平等参画推進センターでの当事者交流広場「ぽると」の開設や「にじいろライブ」(セミナー)の開催(一般社団法人にじいろほっかいどうとの共催)



これまで行ってきた取組みについても継続

- 多様な性啓発週間「にじいろ週間」の実施
本市独自の啓発期間として今年度より開始
1月に市役所1階ロビーでパネル展を実施



R6.1.4～10 パネル展の様子



本市は、誰もが人権を尊重され、自分らしく
暮らせる社会の実現を目指します

